

【今日の説教から】

「あなたは…わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」との神様の言葉を受け、アブラムは75歳にして新たな出発をしました。その後飢饉を避けてエジプトに入り、妻サライをめぐっての出来事があったり、周辺の王たちによるロトの襲撃への奪還劇などがありました。

主は「アブラムよ恐れてはならない、わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは、はなはだ大きいであろう」と語られましたが、彼にはその報いを受け継ぐべき子がいませんでした。

主なる神様は言いました。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい…あなたの子孫はあのようになるでしょう」ルカ福音書のザカリアを思い出します。

「アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。」信仰による義というテーマは、もうここに現れています。「主なる神よ、わたしがこれを継ぐのをどうして知ることができますか」アブラムは主を信じたと聖書は語りますが、それでもアブラムはしるしを求めました。神様は600年以上も後の出エジプトのことまで語られ、彼の子孫のための贖いによる救いを示されます。まことに、「主はわが盾」です。

皆様おはようございます。

1月も下旬に差し掛かりました。ここ最近は寒さが一段落していますね。今週も最高気温が二けたの穏やかな天候になりそうです。そんなこんなであと1か月辛抱して、3月の声を聞きましたら、この冬も乗り越えることが出来るのではないかでしょうか。

寒さと共に感染症が猛威を振るっていますが、ぜひ皆様ご自愛ください。互いに祈り合って進んでまいりましょう。

さて、先週の創世記12章から少し飛びまして、15章が開かれました。

アブラムはサライとロトと共に飢饉を逃れてエジプトに逃れますが、そこで妻が美しいのを見て王が近づきますが、アブラムは自分が夫であると言ったら嫉妬のあまり実が危ぶまれると、一計を案じて妻を自分の妹と偽り、サライをめとろうとしたエジプトに神様が怒りを下され、パロはアブラムに言います。

12:18 パロはアブラムを召し寄せて言った、「あなたはわたしになんという事をしたのですか。なぜ彼女が妻であるのをわたしに告げなかったのですか。

12:19 あなたはなぜ、彼女はわたしの妹ですと言ったのですか。わたしは彼女を妻にしようとしていました。さあ、あなたの妻はここにいます。連れて行ってください」。

神様を信じて、身の危険が及びそうな状況でも、筋を通して主の守りを疑わずに進むというところが私たちのアブラハムへのイメージであったはずなのですが、彼のご都合主義と言いますか、打算主義というか、悪知恵を用いてうまく立ち回ろうとする姿には何か親近感を抱きます。部下の妻を無理やりに奪ったダビデ王にしてもそうですが、族長ですか、王ですか、聖書に出てくる立場のある立派な人たちがその弱いところ、失敗をさらけ出しているというこの聖書という書物の赤裸々さと言いますか、恐ろしさと言いますか、人の現実を隠さずに直視させる書物であると思います。

その後アブラムとロトとは住む土地を分けることとしますが、ロトは叔父さんを前に遠慮なく肥沃な土地を選びます。それがソドムとゴモラの町のあたり。

13:13 ソドムの人々はわるく、主に対して、はなはだしい罪びとであった。

私たちは見抜く目が鈍く、見目麗しい好条件の陰に潜む危険に目をやることが出来ません。

主は肥沃な地を快く追いに譲ったアブラムに祝福を与えます。彼は祭壇を築き、繁栄に目を奪われずに祈りと共に人生を進みます。

13:14 ロトがアブラムに別れた後に、主はアブラムに言われた、「目をあげてあなたのいる所から北、南、東、西を見わたしなさい。

13:15 すべてあなたが見わたす地は、永久にあなたとあなたの子孫に与えます。

13:16 わたしはあなたの子孫を地のちりのように多くします。もし人が地のちりを数えることができるなら、あなたの子孫も数えられることができましょう。

13:17 あなたは立って、その地をたてよこに行き巡りなさい。わたしはそれをあなたに与えます」。

13:18 アブラムは天幕を移してヘブロンにあるマムレのテレビンの木のかたわらに住み、その所で主に祭壇を築いた。

(新共同訳) 13:16 あなたの子孫を大地の砂粒のようにする。大地の砂粒が数えきれないように、あなたの子孫も数えきれないであろう。

「あなたの子孫を大地の砂粒のようにする。大地の砂粒が数えきれないように、あなたの子孫も数えきれない」そして今日の箇所ではそれに呼応するように、

「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい」。また彼に言われた、「あなたの子孫はあのようになるでしょう」。 15:5

神様の祝福のスケールの大きさを感じます。大地の砂粒の数とはいかばかりでしょうか。私たちにとっては遙か知恵の及ばない、想像も計測もできない数ですが、神様にとっては、その一粒一粒をお造りになられたお方ですから、それを数えることくらい、何の苦労も持たないお方です。そのお方がアブラムへの祝福をお約束下さいました。

空の星の数。よく膨大な数のことを天文学的数字と言いますが、これも大地の砂粒と同じくらい無尽蔵なものです。空の星から地の砂粒に至るまで。この大自然全て。森羅万象のすべて。すべては神様の御手のうちにあります。

ロトの住む町。そしてそこが肥沃な所であるがゆえに、周辺の王たちによる略奪騒ぎも起りますが、祈りと共にここではアブラムは見事な指揮の下、略奪者たちを猛追し、奪われた財産も家族もすべて奪還します。見事な働きでした。

15:1 これらの事の後、主の言葉が幻のうちにアブラムに臨んだ、／「アブラムよ恐れてはならない、／わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは、／はなはだ大きいであろう」。

名を呼んで「恐れてはならない」と語られる主の御声。私たちも今日、御言葉からその主のお声を聞きます。

自らの身辺にはいろいろなことが起こります。不安、恐れ、打算、危険、困難、圧迫、危機、裏切り、飢餓、略奪…。しかし、祭壇を築いて祈るアブラムに、主は恐れるなど語られました。私があなたの盾だと主は語られました。私たちの身は、それらの困難を前に弱くむき出しにさらされているわけではありません。神様が盾となっていてくださるので。そしてあなたの受ける報いは甚だ大きいと語られるのです。

2コリント 6:2 神はこう言われる、／「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、／救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

6:3 この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまずきを与えないようにし、

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖靈と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

6:8 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、

6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、

6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

しかし依然としてアブラムには悩みがありました。彼には苦労内多くの資産が与えられていましたが、それを受け継がせるべき彼の子がいませんでした。それらはしもべの子に譲られて行くのみでした。

15:2 アブラムは言った、「主なる神よ、わたしには子がなく、わたしの家を継ぐ者はダマスコのエリエゼルであるのに、あなたはわたしに何をくださろうとするのですか」。

15:3 アブラムはまた言った、「あなたはわたしに子を賜わらないので、わたしの家に生れたしもべが、あとつぎとなるでしょう」。

15:4 この時、主の言葉が彼に臨んだ、「この者はあなたのあとつぎとなるべきではありません。あなたの身から出る者があとつぎとなるべきです」。

15:5 そして主は彼を外に連れ出して言われた、「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい」。また彼に言われた、「あなたの子孫はあのようになるでしょう」。

15:6 アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

砂の粒に次いで天の星の数までも子孫を増やすとのお言葉です。彼は自分の高齢の状況のいざ知らず、その神様の言葉を信じました。ふと心に信じた、未来に神様の語ったことが起くるんだと、淡い期待のようなものではないでしょうか。神様のお語りになられることを心に留めて、それを信じる心のゆえに、神様はそれをアブラムの義、彼の正しさと数えてくださいました。

神様は私たちに数えきれないほどのおびただしい恵みと守りを約束され、神様は私たちの心の中の、淡い淡い、些末な信仰の目をいち早く高性能な電子顕微鏡でも見えないような小さな小さな信仰の萌芽を認めて、数えて、そして正しいとの、合格との判を押してくださるのです。

悪いことをしたね、ごめんなさいを言えるねと、子供を前にして、泣きべそをかきながら、消え入るようなかすかな声で、子供が「ごめんなさい」といったことを漏らさずに聞いて、ようし、それでいいんだ、分かったねと、励まし称賛する親のように、神様は私たちのわずかな信じる心を最大限に評価して、私たちに正しい、合格との太鼓判を押してくださるのです。本当に子煩惱な父親のようなお方ですよね。

15:7 また主は彼に言われた、「わたしはこの地をあなたに与えて、これを継がせようと、あなたをカルデヤのウルから導き出した主です」。

15:8 彼は言った、「主なる神よ、わたしがこれを継ぐのをどうして知ることができますか」。

ウルの地からカナンに連れてきたというこの出来事には意図があり、神様のもとにはずっとずっと前から祝福のご計画があったのでした。私たちが頭を抱えて、明日はどうなるか、あさってはどうなるかと考えあぐねているとき、悪しき者の影響が近づき包囲して、略奪する者が近づいて来ようとも、神様のもとには大きな救いのご計画があります。

しかし、また二言目には悩みと不信仰の波風が心に襲い来るのが弱い私たちの現実です。

15:8 彼は言った、「主なる神よ、わたしがこれを継ぐのをどうして知ることができますか」。

ザカリアであれば、黙っておれ！！と、神様からの反省を促されるような場面でした。難によつてそれを知ることが出来るのか。しるしが欲しい。目に見える保証が欲しい。確証が欲しい。ついさっき、ついさっきに信じて義とされたとお褒めを頂いたばかりなのにもう。それが私たちの現実です。正しいものはいない。一人もいない。そんな現実は神様にとってどんなに酷なことなのでしょうか。

士師記 21:25 そのころ、イスラエルには王がなかったので、おのおの自分の目に正しいと見るところをおこなった。

イザヤ 53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

15:9 主は彼に言われた、「三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山ばとと、家ばとのひなとをわたしの所に連れてきなさい」。

15:10 彼はこれらをみな連れてきて、二つに裂き、裂いたものを互に向かい合わせて置いた。ただし、鳥は裂かなかった。

15:11 荒い鳥が死体の上に降りるとき、アブラムはこれを追い払った。

15:12 日の入るころ、アブラムが深い眠りにおそわれた時、大きな恐ろしい暗やみが彼に臨んだ。

15:13 時に主はアブラムに言われた、「あなたはよく心にとめておきなさい。あなたの子孫は他の国に旅びととなって、その人々に仕え、その人々は彼らを四百年の間、悩ますでしょう。

15:14 しかし、わたしは彼らが仕えたその国民をさばきます。その後かれらは多くの財産

を携えて出て来るでしょう。

15:15 あなたは安らかに先祖のもとに行きます。そして高齢に達して葬られるでしょう。

15:16 四代目になって彼らはここに帰って来るでしょう。アモリビとの悪がまだ満ちないからです」。

15:17 やがて日は入り、暗やみになった時、煙の立つかまど、炎の出るたいまつが、裂いたものの間を通り過ぎた。

15:18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた、／「わたしはこの地をあなたの子孫に与える。エジプトの川から、かの大川ユフラテまで。

15:19 すなわちケニビと、ケニジビと、カドモニビと、

15:20 ヘテビと、ペリジビと、レパイムビと、

15:21 アモリビと、カナンビと、ギルガシビと、エブスビとの地を与える」。

そういう右往左往の民は、主の力強さを折々に教えられます。苦労したヨセフによる民全体の救い。しかしやがて後に訪れる長年の困難。しかしそこからの解放。主なる神様は、このアブラムに語られる日の600年以上先までのことを明らかにされ、神様のお約束の確かさを語り、超自然的なさまでいけにえをお受け取りになられました。

その、人の不信仰のためにまたもいけにえが割かれなければなりませんでした。ここにもイエス・キリストの予型が現わされています。主はいけにえを与え、主は奴隸の地から解放され、主は頑迷な民を導き続けてくださいます。

私たちの信仰深さの前に、主のご真実が輝いています。いつまでも見捨てない愛のご真実は私たちの信仰にはるかに勝って、その憐れみは、私たちのいけにえにも、すべての行いに勝って尊く輝いています。ですから私たちはまた、立ち返って主の御元に戻り、主を信じることが出来るのです。主の感謝を捧げましょう。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう」との御言葉をありがとうございます。老年にして子が与えられることを信じた彼を神様は義としてくださいました。しかし義と認められたからと言って私たちが自分自身のうちに完全な信仰と正し

さをもっている訳ではありません。あくまでも神様の贖いと赦しによ
って神様が盾となって守って救ってくださいますからありがとうございます。
私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用
い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン